

“わたしのまち”

大田区

大田区四季めぐり

春夏秋冬、季節を感じる魅力あふれる場所

海と川に恵まれ、古くから交通の要所として人々が行き交い、栄えてきた大田区。区内には文化財や歴史的名所が数多く残っています。また、春の桜や秋の紅葉の名所など、季節を感じさせる自然が身近にあるのも区の魅力の一つ。毎年8月に夜空を彩る花火の祭典や、冬の風物詩どんと焼きなど、四季折々の風景を楽しめるスポットを紹介します。



見所いっぱいの大田区

東京23区の最南端にある大田区は、海と川に臨む武蔵野台地の先端に位置していることから昔から人が住みやすく、さらに交通の要路でもあったため、区内には日本考古学上最初の遺跡である大森貝塚、多摩川沿いに点在している古墳群、中世以来の歴史をもつ洗足池、日蓮聖人が最期の日々を過ごしたとされる池上本門寺など、多くの史跡や文化財が残されています。

また、埋め立て地からなる臨海部では、野鳥公園や海浜公園が整備されており、人気のスポットになっています。区内には、1年を通していつ訪れてもその季節ならではの雰囲気を楽しめる見所がいっぱいあります。春夏秋冬、

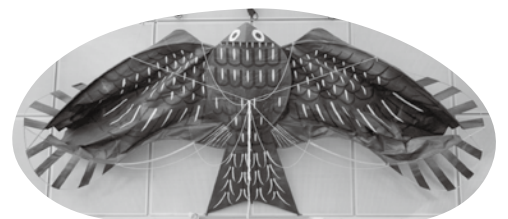
おすすめの見所を紹介いたします。

春の桜の名所、桜坂

春の区内には、多摩川沿いや洗足池公園、池上本門寺、馬込桜並木などを観賞できるスポットが数多くあり、花盛りを迎える時期には多くの人でにぎわいます。2000年に発表されたシンガーソングライター、福山雅治さんが歌われたことで有名になった桜坂もそんな桜の名所の一つです。

東急多摩川線沼部駅から東光院前まであり、北東へ向かった田園調布本町にある桜坂は、石垣にはさまれた緩やかな坂道です。

沼部駅周辺は、かつて渡し場「丸子



とんび風の特徴は独特なその形にある。写真は区役所本庁舎3階に飾られているとんび風(横5.7×縦2.7m)。区立郷土博物館の常設展示でもとんび風を見ることができる

桜坂

アクセス 田園調布本町19番付近
東急多摩川線「沼部駅」下車徒歩約1分



福山雅治さんの「桜坂」の大ヒットで一躍有名スポットに

春

広報担当おすすめお得情報
桜橋の上から
見ると桜が
より身近に
見えますよ！



の渡し」があった多摩川に、中原街道がぶつかる位置にあたります。中原街道は、江戸から相模国さまみくにの平塚中原に通じる道で、中原産の食酢を江戸に運ぶ運送路として利用されたため、「御酢街道」とも呼ばれていた道です。すでに近世以前に存在し、徳川家康が江戸に入国した際にも利用されました。桜坂はこの街道にある切通しで、昔は「沼部の大坂」といい、勾配がきつく荷車などの通行は大変であったようです。辺りの村落は旅商人の往来でにぎわい、腰掛け茶屋などが坂道の両側にあったともいわれています。大正時代になると街道の改修工事が

行われ、道幅を拡張するとともに切通しにして勾配が緩やかにされました。そして昭和5年、昭和天皇の即位御大典記念として地元有志により両側に桜の木が植えられて「桜坂」と命名されました。丸子橋が完成し、昭和10年に中原街道が現在の位置に変更されると、丸子の渡しは廃止となり、桜坂のある通りは旧街道になりました。閑静な住宅街の中にある桜坂の存在は、地元の人の間では中原街道から多摩堤通りに抜ける道として知られていましたが、現在のような桜の名所としての全国的な知名度はありませんでした。

しかし、「桜坂」のヒット後は桜の季節は渋滞が発生するほどの人気で、1日に約500人も人が訪れます。桜が咲いていない時期でも若者が立ち寄る姿が見られます。約30本の桜が春には花のトンネルとなり、訪れる人の目を楽しませてくれます。道路沿いの桜並木と併せて、坂の上に架かる桜橋の赤い欄干が風景に彩りを添えます。

穏やかな春の日々にのんびりと散策するのにおすすめの場所です。

夏の夜空に平和を願う、花火の祭典

区では昭和59年に、世界の恒久平和と人類の永遠の繁栄を願い平和都市宣言を行ったことを記念し、毎年8月15日に大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」を開催しています。ジャズや和太鼓のアトラクションや平和記念式典などが行われますが、その後六郷土手の多摩川河川敷で打ち上げられる5000発の花火は毎年夏の風物詩となっており、暑い中、多くの人が鑑賞に訪れます。終戦70年という節目の年となった昨年は、

全国の花火業者10社から平和のメッセージを受け取り、メッセージに合わせて花火の打ち上げを行いました。この花火の打ち上げは、区民の方のみならず、区外の方からも広く寄せられる協賛金で行われています。昨年は約711万円あまりの額になりました。昭和62年から行われている花火の打ち上げですが、当初

大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」

※毎年8月15日開催

アクセス 西六郷四丁目地先（多摩川河川敷）
京浜急行線「六郷土手駅」下車徒歩約5分



広報担当おすすめお得情報
アトラクション・平和記念式典は見られませんが、花火を見るなら会場の上流にある区民広場が穴場です。



アトラクションでの大田区太鼓連盟の和太鼓演奏の様子

参加者は2万人だったのが、現在では12万人にもものぼる見物客が訪れます。毎年、花火を鑑賞した人からは、「迫力と美しさに魅了された」「毎年楽しみにしている」といった声があがっています。紅葉の秋、田園調布の銀杏並木田園調布は、扇状に区画整備された道路と、みどりが多く落ち着いた雰囲気魅力の住宅街で知られています。駅前から放射状に植えられた銀杏並木は秋になると黄色く色づき、見事な黄金ロードとなつて訪れる人の目を楽しませます。

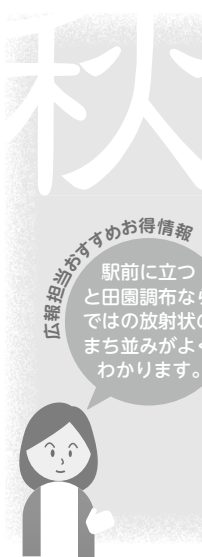
紅葉の秋、田園調布の銀杏並木

田園調布の銀杏並木

アクセス 田園調布三丁目付近
東急目黒線・東横線「田園調布駅」西口



四季の移り変わりを映す街路樹。秋には159本の銀杏が黄金色に輝く



広報担当おすすめお得情報
駅前立つと田園調布ならではの放射状のまち並みがよくわかります。

田園調布の住宅街は実業家・渋沢栄一の計画により大正7年から開発された、日本で最初の住宅専用市街地です。当時欧米で広がっていた「田園都市」に着目し、まち全体がひとつの公園のように美しく整えられました。

駅東側は主に商業地域として、西側は住宅地として分譲され、とくに西側は駅を中心に放射状道路と同心円状道路が設定され、街灯、街路樹、上下水道などが配置されました。

また、広場や公園も整備され、敷地と家屋の面積の割合、道路や隣家との間は生け垣を用いるなど、まち並みに自然との調和や景観を保つための配慮

がなされました。今でも開発当時の理念を受け継ぎまちが守られており、秩序ある美しいまち並みが残されています。このような良好な住環境により、田園調布はまちの評価が高く、人気の居住エリアです。

このまちの顔ともいえるのが、駅の西口から伸びる銀杏並木です。同心円放射状の街路のうち駅から放射状に伸びている3本の比較的広い道沿いに、開発当時から植樹され

た街路樹の銀杏が連なります。閑静な住宅街に広がる並木道は、家々の花壇や生け垣とも調和し、歩いて楽しい散策地となっています。瀟洒な家並みが連なる素敵なまち並みは散策におすすめ。一番左側の銀杏並木を宝来公園まで足を延ばして歩いて見るのもよいでしょう。

冬の風物詩、六郷どんど焼き

多摩川河川敷では毎年1月の第2日曜日、今では都内ではあまり見かけることの少なくなった正月の伝統行事、どんど焼き「六郷どんど焼き」が行われています。

どんど焼きはもともと小正月の行事で、長い竹を数本組んで立て、お正月の松飾りやしめ飾り、書き初めなどを持ち寄って焼き、その火でもちや芋を焼いて食べ、健康と幸福を祈る行事です。

毎年、焼きいも、みかん、甘酒、おしるこが振る舞われ、長い列ができるほどの人気です。子ども連れの家族の姿も多く見られ、燃え上がる炎の迫力に見ている子どもたちが

目を見張る姿も。当日は、古くからの地域に伝わる郷土玩具「六郷とんび凧」の凧上げも同時に行われます。

六郷とんび凧とは、六郷で古くから伝わる鳶とんびの姿を模して作られた凧のことで、昔、川で獲った魚を河原に並べて干したところカラスの群れに荒らされて困り、とんび凧を揚げてみるとカラスが驚いて逃げたことから盛んに作られるようになった、ともいわれられています。

本物の鳥さながらに空を舞う姿は圧巻で、今では正月の恒例行事として定着しています。

凧作りに参加する子どもたちは作り

六郷どんど焼き

アクセス 東六郷三丁目25番地先(多摩川河川敷 六郷橋緑地)
京急本線「六郷土手駅」下車徒歩約5分



どんど焼きで一年の無病息災・五穀豊穡を祈り、良い年を迎える

広報担当おすすめお得情報

火がつくとあっという間に燃え上がるので見逃さないように！



方を教えてもらい凧揚げを行います、完成できなかつた子どもたちには配布が行われています。

この六郷どんど焼きととんび凧揚げは、社会環境の変化などにより古くから伝わる行事が失われていく中、地域が誇る歴史文化が守られている貴重な例といえます。主催する六郷どんど焼きの会や六郷とんび凧の会など、地元関係者による熱心な活動がこうした伝統行事を支えています。

この時期ならではの正月事納めの行事に参加して、すがすがしい気分での新しい年を迎えてみてはいかがでしょうか。